

6 南牧第 3 4 号
令和 7 年 1 月 1 6 日

御 尋 ね 書

南牧村小中学校建設検討委員会 御中

南牧村長 有 坂 良 人

貴委員会へ下記の内容について、理由を添えてお尋ねします。

記

1、御尋ねの内容 今後の南牧村立小中学校に望まれる学校環境のあり方

2、御尋ねの理由

全国的に進む人口減少は、南牧村においても例外ではありません。特に少子化は深刻であり、5年後の児童生徒数は現在よりも9名減少した181名になる予定です。現在、南牧村にある小中学校でこのような状況が進めば、1つの学年で数名の児童や生徒が教室で学ぶといったことも起こり始め、複式学級や、連学年による合同授業などを行わなければならない状況となります。児童生徒にとっては一定程度の同学年の仲間のなかで学び、成長することも必要です。また、近年、学校教育の現場では、教師から児童生徒へ一方的な授業を行う形から児童生徒が自発的に学び、探求する形に変わってきています。そのうえ、友達同士で協力して学習していくことも求められています。我々が学校で経験した授業形態や、教育方針から大きく様変わりしています。

南牧村では少子化のなかで 20 年来、学校統合について議論が続けられています。平成 28 年 5 月に設置された「南牧村学校づくり委員会」では 7 か月の議論の末、「現在ある 2 校の小学校を統合し、統合小学校と中学校において特色ある小中一貫教育を目指す。」と答申されました。そして、その議論をさらに進めるために平成 29 年 5 月に「南牧村小中学校建設検討委員会」が設けられ、平成 29 年 12 月 26 日に当時の村長へ中間報告書を提出されています。中間報告書では、学校施設の在り方については、小中一貫教育を進める上で小学校と中学校が一体となったものが望ましいとの意見が多数でしたが、今後さらに南牧村に最も適した望ましい教育環境の実現に向けて議論するとされています。また、新しい学校施設の建設場所については現在の南小学校敷地と中学校敷地周辺の 2 候補地に絞られましたが一か所に決定するに至っていません。その後、最終的な結論を得ないまま、「南牧村小中学校建設検討委員会」が翌年、解散しています。

このような状況を踏まえ、南牧村立小中学校に望まれる学校環境のあり方について取りまとめることとしたく、貴委員会にお尋ねします。